令和４年３月１１日

目黒区教育委員会教育長　宛て

目黒区立第十一中学校長

田井　俊行

令和３年度 目黒区立第十一中学校 学校評価報告書

１　学校評価委員会の実施内容

（１）第１回実施日時　令和４年２月８日（火）　午前 10 時 45 分～午前 11 時 35 分

・評価結果確認

・検討方法について

（２）第２回実施日時　令和４年２月 15 日（火）　午後４時 00 分～午後４時 50 分

・校内検討

・意見集約

（２）第３回実施日時　令和４年２月 28 日（月）～3 月 10 日（木）書面開催

・学校関係者評価

・意見集約

２　参加者

学校評議員・親師会会長

校長・主幹教諭・学年主任・教務主任・生活指導主任・進路指導主任・事務主事

３　評価の結果等

別紙参照

別紙

3　評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎（成果）、●（課題）、◉（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて	◎地域からのアンケート回収率が180％増と大きく伸びている。（区平均は前年度比 12％減） ◉保護者・生徒とも前年度より肯定的評価は上昇しているが、区平均と比較すると同程度かそれ以下となっている。 ●今年度初めて生徒の学習用情報端末で保護者・生徒のアンケートを行ったが、回収率はいずれも区平均及び前年度比とも下回っている。	・生徒・保護者の反応から成果が上がっていることがわかるが、引き続き学校の活動を積極的に発信していく。 ・生徒に対しては、紙の時と同様、時間を確保し一斉に実施する。保護者に向けては c4th Home&School で等で協力を呼びかける。個人の端末でもアンケート回答できるようになると良い。	・生徒・保護者のアンケート回収率が大幅に減少したことの原因はわからないが、その改善に向けての取組を教職員が提案したのはよい。公表しなくともよいが、特に少なかったのは何学年の生徒と保護者であったかなど、その原因と改善策を生徒会や親師会の役員会でも話し合って教員の想定と工夫を補完したらよいと思う。 　また回収率上昇のための改善策の一つとして、前年度等の学校評価アンケートによって学校はどの部分をどう改善して新年度の学校運営に臨んでいるかを何らかの方法でアンケート実施前の適当な時期に生徒・保護者等に知らせたらよい。 ・アンケート各項目の率の少々の上下はそれほど気にすることではない。統計の専門家が評価すれば誤差範囲に入るものが多いのではないかと思う。しかし対象が生徒でも保護者でも、特に C+D の率が 10％を超える項目については、その原因と対策を検討し、場合によっては次年度以降にも引き継いで学校の大きな課題として対応したらよいと思う。また、各設問で生徒や保護者が何を基準にしてＡとＢを分けるか、ＢとＣ、ＣとＤを分けるかを学校も区教委も検討してみてもよいだろう。かなり、大事な問題が潜んでいるかもしれない。 ・概ね高評価で良いと思う。 ・生徒達は落ち着いて勉強している。教職員の人柄もプラス効果になっていると思う。 ・コロナ禍でも極力通常の形になるように工夫され」、適切に運営されていると感じる。
Ⅰ　教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎教育目標に対する肯定的評価は、保護者は区平均を超え、生徒は区平均とほぼ同じである。		・15％の生徒の理解が不十分であるようにも見受けるが、これは生徒があまり教育目標には注意しないこともある。人間尊重の教育を基調として、自ら学び、考え、よりよい生き方を実践できる生徒を育成するということも意識させて、具体的に「思いやり」「責任感」「実行力」の 3 つの目標があることを伝えたらよいかもしれない。 ・高評価で良いと思う。 ・校長自らの説明で、保護者に明確に伝わっていると思う。 ・教育目標・時程・教育内容全体については適切であると思う。
Ⅱ　心の教育について ・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◉心の教育に対する肯定的評価は、保護者は前年度より向上している。生徒は前年とほぼ同程度である。	・道徳については、ローテーション道徳の取組が保護者に認知されてきた。 ・現在の取組を継続し、教材分析シートを活用した指導方法・内容の共有をさらに進めていく。	・道徳授業地区公開講座は毎回、内容や方法に工夫が見られる。シート活用もその一つである。しかし参観者には、この教材と授業が各生徒の内面にどのような影響を与えたかがわかりにくい。各生徒の考えの発表、生徒同士の意見交換の時間がもっとあれば、その内容がどのように各生徒に響いたかがわかるだろう。先生は道徳の授業では従となり、もし別の考えがあれば紹介して、生徒の考えを揺さぶったらよい。最終的に生徒が感じ考えたことが平凡なものならば、教材が良くないとも言えよう。そういう意味では、十一中の生徒には「心の教育」でこの面がまだ十分でないかもしれないから、この教材を採り上げるといった教師のねらいも参観者に伝わるとよい。 　道徳の公開授業を保護者や地域の人に設けてくださるならば、2つのことを提案したい。 ①参観者が各生徒の自分の考えの発表と活発な意見交換と、時に自分の考えを修正する場面に遭遇するために、生徒は前の時間に教材をよく読み、教員の用意したシートに記入する。シートには教材の趣旨と関係があると思われる生徒自身の体験とそれについての考えの記入もあればよい。教員はそれらを読み、各生徒の感じたこと考えたことを類型に分けて、公開授業ではそれに基づいて生徒の個人体験も適宜利用して進めれば、内容のある生徒の発表と意見交換が期待でき、参観者も充実感を覚えるだろう。前の授業で生徒が教材を読みシートに記入する時間が余るようならば、2 種の教材を用意して同様の作業をしたらよい。この 2 月の都立高入試問題の国語では、かなりの量の文章を読み、それを正しく理解したかの判断と自分の考えが問われている。それにも対応できる力をつけたい。 ②公開授業における参観者には、教材のコピーが用意されるとよい。前時で使われたその教材用のシートのコピーもあればなおよい。 ・道徳は、具体的な数値で評価のしにくいものだが、学校評価で高評価が出たことは喜ばしい。 ・校長自らの説明で、保護者に明確に伝わっていると思う。 ・心の教育については適切であると思う。

Ⅲ学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、○○タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について	◎数学・英語の少人数指導に対する生徒の肯定的評価は、大きく向上している。 ◉学習活動の工夫に対する肯定的評価は、保護者では向上し、生徒は低下している。 ●進路指導に対する保護者の肯定的評価は、前年度より低下している。また、「わからない」という評価の割合が多い。	・学習活動の工夫について、iPad の活用方法が生徒の学習活動や内容に即しているか判断するための振り返りの機会を設ける。 ・公開授業等で iPad を活用した授業を取り入れる等、実践をとおして改善を図る。 ・コロナ禍での、職業体験・訪問など可能な限り体験活動を取り入れたが、キャリア教育として、保護者に認識されていない。 ・進路指導年間計画等を用いて保護者にわかりやすく説明する。次年度の進路説明会は、1・2年保護者も通知する。	・iPad やICT機器の活用によって教育効果が上がることは期待できる。生徒個々の学習の習熟度に差がある中での学習指導は、いつの時代でも教員の工夫、学校の姿勢が問われるところである。各生徒がこれは面白い、これはこういうことと関連しているから大事だ、自分なりに少し努力してみたら成果があった、うれしいなどの体験は深い学びに通じるであろう。教員の親身な各生徒に響く対応を期待したい。 ・先生方の日々の努力が高評価で数字として表れて大変喜ばしい。 ・コロナ禍で制約の多い中、iPad の活用、少人数指導など工夫していると思う。 ・スキー教室も開催運営に感謝している。 ・学習指導については適切であると思う。
Ⅳ　体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◉保護者・生徒とも前年度より肯定的評価は上昇しているとともに、区平均と比較すると同程度かそれ以上となっている。教員は昨年度よりも肯定的評価が低下しているともに、区平均よりも低い。	・教員は、体力テストの結果や休み時間に体を動かすことが少ないことに課題を感じている。生徒は、授業や部活動、行事では、体力向上に前向きに取り組んでいるので、これらの活動の工夫をさらに進めていく。	・中学生には思いきり体を動かす環境があることは大事だ。運動を繰り返せば体力測定の数値も上昇するであろうが、上位にならなくとも、記録が次第によくなればうれしさを感じるであろう。コロナ感染等の影響があっても、中学生の身体の健全な発育のためには、少なくともこれだけの運動をする必要であると、可能な限り科学的なデータに基づき教員間のコンセンサスを得て、環境を整えてほしい。 ・コロナ禍でなかなか取り組むのが難しい分野だったと思うが、先生方の努力が高評価につながったと思う。 ・コロナ禍で制約の多い中、工夫し取り組んだことが保護者の高評価になったともう。 ・コロナ禍で機会は少なくなっていると思うが、取組については適切であると思う。
Ⅴ特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて	◉特別活動に対する肯定的評価は、保護者は区平均とほぼ同じ、生徒は区平均を下回っている。教員は肯定的評価が前年度よりも向上している。 ●部活動に関して、生徒・保護者ともに活動内容に関して、肯定的な評価の割合が低い。	・コロナ禍において、部活動の充実を図ることが難しい状況である。 ・統合準備として、第八中学校と定期的な合同練習等の交流を検討していく。 ・部活動合宿の復活、運動部合同で専門家を招聘しアジリティトレーニングのクリニックを行う等の活動の工夫を検討していく。	・中学生は特別活動において多面的によい体験をする。教職員は各生徒が自分の良さを発揮できるように、見守り指導し、環境整備等にも努めてほしい。 ・こちらもコロナ禍で制約が多く大変だったと思うが、「できることをやる」ところが高評価につながったと思う。 ・生徒数の減少により運営も難しいと思うが、生徒の要望も取り入れ、部活の統廃合を検討してはどうか。 ・コロナ禍で中止となった行事もあると思うが、取組については適切であると思う。やはり安全第一である。
Ⅵ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎生活指導に対する肯定的評価は、保護者・生徒とも前年度より上昇している。		・いまの第十一中でどこにどのような課題があるか知らないが、保護者・生徒の評価が高いこと、しかし C+D の評価もあるので、教職員はその中身が何かを知り注意をはらってほしい。 ・生徒達自身を含め、落ち着いて生活できている自覚があるのは大変喜ばしいと思う。 ・道徳教育に力を入れている効果で、生徒自身も理解・認識しながら生活できている。 ・生活指導についての取組は適切であると思う。
＜防災教育・安全指導＞ ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎防災教育・安全指導に対する肯定的評価は、保護者・生徒とも前年度より上昇している。生徒たちに災害に関する安全教育や安全に対する意識が醸成されてきた。		・訓練の際の教職員の姿勢が、生徒に伝わっている。 ・大多数の中学生がこの重要性を自覚しているように見受けられる。保護者も地域の人も中学生がしっかりしていることを頼もしく感じている。学校もさらに努力を続けてほしい。 ・「備えあれば憂いなし」何か起こったときに、この高評価が生きてくると思う。 ・住区住民会議との合同訓練等、従来からの取組が復活できるようになった際には、また実施していただきたい。

			・防災教育・安全指導についての取組は適切であると思う。
＜幼・保・小・中連携＞ ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	◎小・中連携に対する保護者の肯定的評価は、前年度より上昇している。コロナ禍でのいじめ問題を考える子ども会議など、新たな形での連携に取り組んだ。本校の生活指導目標の一つである「あいさつ」は、9年間を見通して、挨拶習慣を定着させる取組として連携して行っている。	・次年度は、コロナ禍で開催できなかった小中連携行事も含め、連携行事を継続していく。	・校区内の公立小学校から第十一中に進学する率が私からみると少ない。その率の上昇を図る種々の取組も必要であるが、この連携は子どもたちにとって大切だと思う。現保護者や近未来の保護者のさらなる理解と協力を得られるように、特に小中校の教員は努力してもらいたい。 ・小学校との連携は、生徒が自身でとても成長を実感できる、良い機会だと考える。近隣の幼稚園・保育園との連携は、コロナ禍で厳しいが、コロナ後は是非再開していただきたい。 ・中学統合で近隣小学校との連携が心配である。統廃合状況・方針の明確な開示と小学校との連携強化を期待する。 ・幼・保・小・中連携についての取組は適切であると思う。
Ⅶ　情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて	◎情報の発信に対する保護者・地域の肯定的評価は、前年度より上昇している。学校だより、学年だよりをとおして、日常生活の様子を丁寧に伝えている。 ◎親師会本部役員の方が中心となって、学校行事等の支援に協力的である。	・次年度も『開かれた学校』を目指し、情報発信を行い、協力を得る必要がある。 ・コロナ禍の保護者会の開催の工夫が必要である。	・ほとんどの保護者は日頃の学校の HP やお便りと自分の子どもとわずかな保護者仲間から学校の情報を得ている。いずれも学校の雰囲気を伝えているが、前者は良い面が、後者は保護者の不満になることが強調されやすい。教職員が各生徒の良い面を具体的に引き出して指導し、不十分な点をどのような方法とステップで改善しようと努めているかがわかりにくいのが現状であろう。 以下も一つのアイデアである。校長による令和 3 年度学校経営方針が公表されているが、それを活用したい。その中の Ⅵ指導の重点 には項目が詳しく記されている。適当な時にふさわしい項目を少しずつ選んで、生徒の現状と教職員の取組んでいる状況を具体的に紹介したらどうか。例えばティーム・ティーチングや習熟度別指導及び少人数指導など、個に応じた指導方法の工夫や改善が教科や学年でどう行われ、各生徒がどのように変容しているか、また「主体的・対話的で深い学び」について 1 年生の現状はこうで、教職員がこのような指導方法をとり、学年が進むにつれて、生徒個人の学びの成長ばかりでなく生徒同士の関係、生徒と教員の関係による学びの深まりも望ましい発展が見られた、あるいは効果がなかった等の具体例を示した報告は、他の項目に関する報告も同様に、生徒・保護者に地域の人にも他校の教職員にも参考になるであろう。これらを行うには、教職員同士の日常における熱心な研究と注意深い振り返りが必要であるが、これは無駄にはならない教育活動である。しかし公表には制約もあろう。区教委との調整もいるかもしれないが前向きに検討してもらいたい。 ・以前のような交流ができないので、PTA（親師会）活動では、時に困難さを感じることがあった。情報を発信して、その返信の扱いをどのようにするか、協力してもらうにはどうすれば良いか、いろいろ考えていかなければならない。 ・学校ホームページでの情報発信が素晴らしく是非継続を願う。また、地域に根ざした PTA（親師会）活動も復活を期待する。 ・コロナ禍の中、交流の機会も限定的となっているが適切に取り組まれていると思う。
Ⅷ　教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎すべての教職員が教育公務員及び公務員としての高い自覚をもって職務に取り組んでいる。	・各教職員の職層や経験年数に応じた人材育成を一層推進していく。	・学校の対応を応援する。 ・令和2年度より10ポイントも上昇しているのは素晴らしい。 ・若手の先生も多く登用されており、校長の指導の下育成していて安心している。 ・教員の人材育成については適切に取り組まれていると思う。
Ⅸ　教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎iPad 活用による教員間の資料やデータの共有で印刷業務が軽減された。 ◉「チーム学校」を意識した取組に対する教職員の肯定的評価は、区平均は引き続き上回るが、前年度より低下している。担任・顧問等、業務負担に一部偏りが見られる。また教職員の連携や取組を保護者に知ってもらう情報発信も必要である。 ◉スクールサポートスタッフや副校長補佐の人材活用や、補習教室の指導員などの一部配置で業務の軽減ができた。	・教職員間の連携強化を進める。また、次年度は新たな人員体制下における保護者と教職員・管理職間の情報連携を改善していく。 ・補習教室（放課後・土曜）の指導員を全教科で配置できるよう、人材確保を検討する。	・学校の対応を応援する。 ・昨年度より10ポイント低下しているのが気になる。先生方、生徒、保護者も含め「チーム十一中」の意識を持つ必要があると思った。 ・IT 技術を利用して、さらに効率化を図り、生徒達と直に接する時間を増やしていただきたい。 ・働き方改革については適切に取り組まれていると思う